

(平成29年6月作成)

事務事業評価シート

(H.29)No.	1479	(H.28)No.	-
-----------	------	-----------	---

事務事業名	未来へつなぐ学びの支援事業		
担当部局名	担当室名	室長名	
教育委員会事務局	学校教育室	中森 早苗	

会計区分	事業コード	462519
一般会計	(中事業名)※予算書事業名	
款 教育費	教育振興費	
項 教育総務費	(小事業名)	
目 教育振興費	未来へつなぐ学びの支援事業	

1. 事務事業の位置付け

総合計画	政策	4	豊かな心と健やかな体を育み暮らせるまち
	基本施策	1	生きる力を育む教育の推進
	施策	1	学校教育
重点プロジェクト	2.若者定住促進プロジェクト		

2. 事務事業の概要

事業目的(めざす効果)
子どもの貧困の連鎖を断ち切る取組、また、名張市で進めるコミュニティ・スクールの「学校支援」「地域貢献」の一環として、学校図書館を活用した子どもの居場所づくりを含めた補充学習や、学校で実施する長期休業中の補充学習の充実を図ります。
事業内容
学校図書館を土曜日や夏季・冬季休業中に地域の大人や子どもに開放し、まず子どもの居場所づくりから始め、地域の大人と子どものつながりを構築し信頼関係をつくるなかで、図書館を活用した補充学習に移行していきます。三重大学などの学生を学生補充学習サポーター、また、地域の方を補充学習サポーターとして、平日の放課後等の補充学習の時間に学力向上の支援を図る体験を通して、地域の人材育成や絆づくりをし、地域の教育力を高めます。

3. 総合計画の目標達成に向けた主な事業の実績・計画

	H.28年度(事業量・取組実績)	H.29年度(事業量・取組計画)	人や子どもに開放し、まず子どもの居場所づくりから始め、地域の大人と子どものつながりを構築し信頼関係をつくるなかで、図書館を活用した補充学習に移行していきます。三重大学などの学生を学生補充学習サポーター、また、地域の方を補充学習サポーターとして、平日の放課後等の補充学習の時間に学力向上の支援を図る体験を通して、地域の人材育成や絆づくりをし、地域の教育力を高めます。		
主な事業の実績・計画	—	学校図書館を活用し、地域に住む大人や子どもが交流する場、または、地域の大人が子どもの学習を支援することで生きがいを見つけ、学び続けられる生涯学習の拠点をつくる。 貧困の連鎖を断ち切り、家庭環境の厳しい児童生徒の学力保障を行う。 H32年度の市内全小中学校においてCSが実施されることに向けた取組みとして、本年度は、市内2中学校、2小学校をモデル校として指定し、学校図書館に各2名の管理者を置く。管理者は、学校図書館の管理及び、補充学習サポーターとともに児童生徒の補充学習の支援や相談を行う。	H.30年度(事業計画)	H.31年度(事業計画)	H.32年度(事業計画)
			H.29年度に実施していない他の市内の3中学校区の小中学校で実施する。	市内小中学校においてCSの推進状況に合わせて実施する。	市内全小中学校において実施する。

	H.28年度(決算見込)		H.29年度(作成時予算額)		H.30年度(計画予算)	H.31年度(計画予算)	H.32年度(計画予算)
	H.27繰越分	H.28現年分	H.28繰越分	H.29現年分			
①直接事業費				840千円	840千円	840千円	840千円
内 国・県支出金				420			
内 地方債							
内 その他()							
内 一般財源	0	0	0	420	840	840	840
人工数							
職員				0.21人	0.21人	0.21人	0.21人
臨時職員等				0.02人	0.02人	0.02人	0.02人
②概算人件費	0千円	0千円	0千円	1,609千円	1,609千円	1,609千円	1,609千円
①+②総事業費	0千円	0千円	0千円	2,449千円	2,449千円	2,449千円	2,449千円

4. 担当室による事務事業の点検

考察(H.28年度の取組評価、課題、施策への貢献、市民との協働など)
近年の家族構成の変化、厳しい労働環境、地域・経済格差の進行により、生活に困難を抱える家庭が増加しています。このような環境の下、保護者の学習、読書等の経験が不足することが、子どもの教育機会に影響を与えている状況があります。子どもにとっての教育機会の格差は、学力格差につながり、将来的な経済格差の要因となります。この負の連鎖を断ち切るために、子どもの居場所を創り出し、地域住民との協働のもとに、地域の教育資源である学校図書館を活用して、未来へつながる支援を行います。

5. 今後の方向性(担当室による内部評価)

【選択肢】	継続(改善)、継続(現行)、継続(拡大)、継続(縮小)、統合検討、休止検討、廃止検討、事業完了(予定含む)	継続(現行)
今後の対応方針(課題解決への取組内容、具体的な見直し内容、継続の理由等)	地域住民の高齢化が進むなか、学校図書館という交流の拠点をつくることで、生きがいを見出し、生涯にわたって学び続けることができることは重要なことである。また、地域に住む児童生徒、とりわけ貧困等家庭環境の厳しさを抱える児童生徒にとっては、地域の方と温かい交流ができる居場所となり、未来へつなぐ学力が保障される機会を得る重要な場になる。この事業がH32年度のCS完全実施の足掛かりには必要な取組である。	
6. 事務事業の取組に係る市の計画	第二次名張市子ども教育ビジョン ばりっ子すくすく計画(第3次) 第3次名張市地域福祉計画	